

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立今治東中等教育学校

評 価 実 施 日

平成29年 3 月 6 日 (月)

委

役

職

備 考

学校評議員 5 名

員

学校関係者評価委員 3 名

評 価 ・ 提 言 等

提言等に対する改善方策等

1 学習・進路実績について

- (1) せっかく本校へ入学した生徒が、前期課程修了時に、他校に抜けるのが本当に残念だ。それを防ぐためには、やはり進学実績を伸ばさなければならない。以前に比べて国公立大学への進学者も増え、進路実績が上がってきていることは確かである。しかし、やはり難関大学とよばれるところへ進学する生徒を育ててもらいたい。勉強を頑張りたい生徒も大切にしてもらえることが伝われば、途中で他校へ変わる生徒を減らすことができると思う。
- (2) 途中で他校へ変わるというのは、「卒業生・保護者へのアンケート」項目である「高校入試がない」メリットを生かしていないということで残念である。

4年前から、高い目標を持って大学進学を目指す生徒たちのグループ（特別講座）を作って指導してきた。今年度は、実際に難関大学を受験した生徒が育っていた。今後もこの取組を継続していきたい。また、特別講座参加者を3年生以上の希望者としていたが、2月に意欲・実力ともに備えた2年生に個別に声をかけた。その全員が、春季休業中に行われる学習合宿への参加を希望している。教員が働きかければ、生徒は応えることを、改めて感じた。生徒の習熟度に応じた個別の課題を与えて添削を行うなど、きめ細かな指導を行い、生徒の高い意欲・能力を引き出し、伸ばしていきたい。

2 学校生活について

- (1) かつては本校の生徒は、校外でもよく挨拶をするので評判だった。しかし先日、地域の方から「交差点で出会ったとき、声をかけても挨拶が返ってこなかった」と言われてショックを受けた。校内では出来ても、定着していないのではないか。ただし、生徒から挨拶をしても地域の方が応えなければ、生徒は意欲を失う。地域の学校の支え方も考えなければならないと思う。
- (2) 出合いを大切にしてくれる生徒、応用力があって言動に幅のある生徒を育てて欲しい。

「土曜市民講座」に来校された方などからは、廊下ですれ違う生徒が、みんな挨拶をしてくれるのがとても気持ち良い。中には止まって礼をしてくれる生徒もいると好評であるが、全員ができていとは限らないことがわかった。校外での実践は更に難しいと思うが、集会などでも、挨拶を行うことの意義について繰り返し話していきたい。部の先輩など関係の深い相手のみでなく、進んで挨拶をすることが、生徒の幅や応用力を広げることにもつながると考える。

評議員会後に行われた「人権の日」の放送でも、生徒自身が、挨拶は「人と人をつなぐもの」として呼びかけていた。